

令和 4 年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

60

福岡県立福岡県立糸島農業高等学校

自己評価				
学校運営計画(4月)			評価(総合)	
学校運営方針			A	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
【成果】 ○授業規律に対する全職員の共通理解を図る取組。 ○中学校・塾教師向け学校説明会を実施した新たな広報活動。 ○自主的な生徒会活動による学校行事の活性化。 ○進学・就職への進路実現に向けた効果的な取組。 【課題】 ○定員割れを起こさない、魅力ある学校づくりの取組。 ○教師・生徒の危機管理に対する意識の向上への取組。 ○国立大学への進学実現のための取組の計画的な実施。 ○効果的な広報活動による地域との連携・協力体制の推進。	教育活動全体をとらえて、鍛えて、ほめて、生徒の可能性を伸ばす教育を行う。 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図り、確かな学力と実践力の向上を目指す。 入学から卒業まで一貫したキャリア教育の充実を図り、希望する進路を100%実現する。 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚を図るとともに、自律心と思いやりのある心豊かな人間形成を目指す。	学科再編を含む教育課程を検討し、新学習指導要領に即した教育実践を検討する。また、その内容について、生徒募集のために中学校や地域への周知を図り、HPの充実や地域、マスコミ等への広報活動を推進する。 主体的・対話的で深い学びを実践した授業改善に取り組み、生徒の基礎学力向上を図る。また地元企業と連携した農産物、加工品の研究、製造を推進し、学校ブランド化を推進する。 3年間を見通したキャリア教育プランの充実を図り、生徒の希望する進路(進学・就職)を実現する出口対策を強化し、100%の進路実現を目指す。また、国立大学への進学者を輩出するため、進学指導を充実させる。 学習環境の整備及び教育相談の充実を図り、いじめの防止と撲滅に取り組む。また、全教科・全領域において人権教育を推進し、道徳実践力を高め、自尊感情や自立心思いやりのある心の育成に努める。		
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価(3月)
教 務	・観点別評価(特に1年生の「A・B・C」評価)を全職員の共通理解のもと実施できるようにし、生徒の学習改善と教師の授業改善につなげる。	・年間授業計画表の中に各観点の評価の割合や評価規準、評価資料を記載するようにレイアウトを変更する。 ・校務支援システムの利用方法や観点別評価の成績処理方法を教員間で共通理解できるようにする。	A A	A
	・生徒募集活動では、特に園芸技術科と動植物活用科の新たな内容をわかりやすく説明し、中学生や地域の方々々に理解してもらおう。	・広報課および農務部と連携して広報活動のための資料を作成する。 ・体験入学や学校説明会で、新学科の取組みや今後の計画について丁寧に説明する。	A B	
生徒指導	・頭髮服装規定の見直しとスムーズな移行	・現状の把握(現行規定・生徒状況・中学校)をし、生徒会・PTAと共に話し合いを進める。 ・生徒の進路実現のための規定とする。関係部署との連携を取る。	A B	A
	・学校行事の見直しと部活動加入率の向上	・120周年行事の成功させる。既存の行事を活かし、交流をおこなう。 ・新たな部活動の導入を検討すると共に外部講師の増員を要望する。	A B	
進路指導	・進路行事の充実を図る。	・進路課会議を定期的に行い、各学年の進路と共通認識をもって進路行事をすすめる。 ・学年と連携をとりながら実施する。	A A	A
	キャリア教育を充実させ、希望進路の100%達成を目指す。	・3年生への面接指導や受験指導を徹底する。 ・担任と進路で連携し、生徒の希望進路を叶える。 ・大学進学希望者を集め、定期的に状況を把握し支援を行う。	A B B	
保 健	校内美化活動の活性化を図る	・重点目標を決めて清掃や環境美化の課題を確認し、広報や点検活動に生かす ・教室、廊下、階段からゴミゼロを目指す ・学校生活全般を通じて、身の回りの整理整頓、校内美化の意識を涵養する	B B A	A
	・感染予防の習慣の定着化及び心身両面からの支援と情報提供を図る ・自らの健康管理ができる生徒の育成	・校内から感染者を出さないように、校内活動全般にわたって感染対策を徹底させる ・健康教育推進事業の充実を図り、健康相談の活性化を促す ・保健室での個別指導を重視するとともに、職員間の連携を緊密にし保健指導の充実を図る	A A B	
企画庶務情報	・学校行事の円滑な企画・運営を行う。	・各課との連携を適宜行い、2カ月ごとの行事予定を前月3週目には配布する。 ・感染症対策の観点から各行事の規模・人数・時間等を考慮して、柔軟に企画・運営を行う。	A A	A
	・PTA活動及び創立120周年記念行事の支援を行う。	・役員会・常任委員会の活動を支援し、感染症に配慮した活動を行う。 ・創立120周年記念誌の発行など記念行事成功に向けて取り組む。	A A	
研 修	・現時点で必要な内容を見極め質の高い研修を効率的に提供する。	・各課や職員からの要望を最大限に汲み取り、実践に繋がる研修を実施し、出席率を95%以上にする。 ・ニーズに応じた校外研修を紹介すると共に、研鑽に寄与する資料や図書の実施を図る。	A B	A
	・教科指導力の向上を目指し多面的に支援する。	・相互授業参観を実施し、異なる指導法や自らの課題を見出す機会とし、各自の指導力の向上を目指す。 ・オンライン授業の方策やICT機器の使用法等を的確に提供し、更にその技術力の向上を目指す。	A A	
広 報	・広報活動を充実させる	・リーフレットとパンフレットを6月までに完成させる。 ・SNSの環境整備を行い、学校新聞等も定期的に発行する。 ・新学科用の広報素材集めを積極的に行う。	A A A	B
	・学校ホームページを刷新する。	・曜日ごとに振り分け、学校全体と各学科ごとに、毎週1ネタ、ホームページの更新を行っていく。 ・120周年に合わせて、ホームページの形式を少しずつ変更していく。	B B	

学校関係者評価		
評価(総合)	自己評価は	
A	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である	
	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
	A	○新学科2年目のPRのためにも、全職員の共通認識のもと生徒を主体とした、さらに魅力ある授業展開を期待している。また、学んだ知識・技術の習得と活用に向け、家庭での学習習慣確立についても一層の指導をしていただきたい。
	A	○大変落ち着いた雰囲気、今後も頭髮・服装、挨拶などは生徒指導の基礎・基本でもあるので、今後も生徒が自発的に取り組むよう指導をしてもらいたい。来客に対してもさらに高めていただきたい。部活のさらなる活性化も望む。
B	○進路指導を1年次からしていただき大変良いと思う。卒業時には全ての生徒の進路が決定するよう、また第一希望の進路をかなえることが出来るよう、進路保障の在り方について今後も改善と充実を努めてもらいたい。	
A	○校内にゴミなどが全く落ちて無く、非常にきれいな環境が保たれている。コロナウイルス感染拡大防止対策についても慎重に対応されてきてよと思う。	
A	○コロナ禍で学校行事が縮小し、生徒が充実できない点もあり残念に思いますが、代替案など努力して進められてきた。今後は徐々に通常通りの学校行事に戻り生徒に有意義な学校生活を提供して頂きたい。	
A	○生徒への教育を止めないためにもオンライン授業など、さらに研修を積み重ねられ、コロナ等にも即時対応できる学習環境の整備を進められた。校外での研修も先生方の資質向上に大きく役立つと思うので積極的に参加してほしい。	
B	○今後さらに興味をひくような広報の在り方を考えていただきたい。ホームページは勿論、インスタグラムを利用した時代に合った広報の在り方を今後さらに検討され来年度実現していただきたい。前原駅も活用して頂きたい。	

農 務	・各学科の特色を生かした学習内容、施設・設備を充実させる	・学科、事務と綿密に協議し、設備の補充を行う。 ・ロードマップを作成し段階的な計画を示す。	B B	B	B	・農場全体会議を開き農務部全体での情報共有と意見交流の場を設定していく必要がある。また、施設の充実に向けた段階的な計画を立てる。
	・地域と連携した活動の強化と外部への取組を積極的に広報する	・広報課と連携し、SNS等を活用した情報発信を行う。 ・一人一プロジェクトに取り組み教育の活性化を図る。	B A			B
人権・同和教育	・人権・同和教育を推進するため、個別の人権課題を中心に、差別の現実学ぶ。	・每学期特設学習を実施することで、人権意識の継続を図る。 ・生徒の実態に合う教材を使用し、心に響く内容を提供する。	A A	A	A	・校内で発生した「かいじ」発言を含む差別事象は、未熟なコミュニケーションの取り方に起因していた。全教科・全領域でのコミュニケーション能力の向上を通して、人権意識を高めていく必要がある。
	・本人の責任ではない理由で修学が困難な生徒を支援する。	・SCや保健室との連携のもと、多様な生徒への支援を行う。 ・経済的に困難な家庭について、事務室と連携し支援を行う。	A B			A
第1学年	基本的生活習慣の確立	・朝早い登校を習慣づけ、1日の良いリズムを作り、遅刻・早退・欠席を減らす。遅刻については0を目指す。 ・挨拶、身だしなみ、授業に取り組む姿勢について、繰り返し指導を行うことで徹底させる。	A A	A	A	・遅刻・欠席が多い生徒への支援・指導を行い、生活習慣の改善に努め、皆勤者100名を目指す。
	基礎学力の向上	・Oトレで漢字の学習を行い、漢字検定合格50パーセントを目指す。 ・考査前の補習を実施し、学力の向上とともに、苦手科目の克服に努めさせる。	A A			A
第2学年	・挨拶や話を聞く態度、意思表示を徹底させる。	・授業中やHRなどで常に指導し、自分から挨拶をする意識を持たせる。 ・言葉による返事や拳手といった意思表示を必ずさせる。	B A	A	A	・学年全体で挨拶や返事ができるようになってきているが、一部の生徒は促さないと挨拶ができない。継続して指導を行い、進路実現のために社会人としての責任感やマナーを身に付けさせ、主体的に行動できるようにする。
	・学校生活における生徒支援の充実と学力の向上。	・修学支援や、養護教諭との連携・協力を密に行う。また精神的に困っている生徒の把握とケアを行う。 ・表現力を向上させるため、朝トレに読解力や語彙力を高める内容を取り入れる。	A A			A
第3学年	社会人として活躍できるマナー、話の聴き方を身につけ、希望進路を実現する。	・面接練習を全員に最低3回、就職希望者は最低6回実施し、挨拶、マナーの評価を記録させ、希望進路を実現する力を身につけさせる。 ・学年集会等で継続して挨拶、マナーの重要性を話し、実践する場を設ける。	A B	A	B	・発熱等での出停の取扱いに改善が必要である。 ・希望進路を決定できない生徒の進路指導。
	最高学年として、主体的に発言し、学校行事で中心的な役割を果たす力を身につける。	・HR等でスピーチの時間を設けるなど、生徒が発言する機会を意図的に設ける。 ・体育祭等でリーダーを中心に生徒が主体的に集団をまとめられるように支援する。	A B			B
事務室	・適切な会計処理とコロナ対策の実施	・会計処理について法令遵守を徹底するとともに、節減を実施し、限られた予算の効率的な執行を行う。 ・教員と連携し、新型コロナウイルス感染症防止のための対策を適切に実施する。	B B	B	B	・引き続き、適切な会計処理を行うとともに不祥事防止に努める。
	・農場管理の充実及び発展	・技師（農業技術職員）の活用及び教員との連携により、農場管理の充実を図る。 ・学校での生産物販売において、厳密な法令遵守の手続きを行う。	B B			B

B	○産学官でさらに連携を深め、地域で学び地域で育てる学習環境の構築に努めていただきたい。また、糸島地区の中学校の技術農業分野における外部講師として、本校生徒が指導者として活躍し、学校の広報にも繋げて頂きたい。
A	○大変難しいデリケートな問題ですが、生徒の自立に向けた支援となるよう、教員全体の情報共有を今後も大切にしてもらいたい。
A	○専門高校なので入学する時点で自分の将来をすでに見据えている生徒が数多くいると思いますので、就職や進学の情報も早い段階から提供し、生徒の進路意識の向上にさらにつなげていただきたい。
A	○様々な取組により、生徒の可能性を引き出していただいているようですが、今後も継続して少しでも学力や社会性を高めていただき、進路実現につなげられるよう指導していただきたい。
B	○進路に向けて今後も様々な取組を検討していただき、進路実現に向けて主体的に生徒が進められるような意識づくりを行っていただきたい。来年度は卒業時に全ての生徒の進路実現を叶えていただきたい。
A	○学校の教育活動の遂行には事務室の理解と協力が不可欠なので、今後も協力・連携して学校の発展に尽力をお願いしたい。

評価項目以外のものに関する意見	
コロナ禍の状況ではありましたが、いつも生徒の学びの保証を最優先に考えて頂いており、今後も全職員で安心して学べる学校づくりに邁進して頂きたいです。	

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・園芸活用科および動植物活用科の新2学年における教育課程の推進のため、教育内容・活動および施設設備の充実を図る。また、生徒募集に向けて、広報課の年間広報計画のもと、HPIはもちろんInstagramなどにより不断の広報活動を推進していく。
・卒業後の実社会を見通した3年間のキャリア教育プランの作成と推進を図る。生徒の希望する進路(進学・就職)を実現するため、各学年に応じた段階的な意図的・計画的な進路指導を実施しながら100%の進路実現を目指す。また、国公立大学農学部への校内指導体制の確立のために、進路指導部を中心に研究を進める。
・月1回の生産物販売会を実現し、全学科における販売実習の学びの場を確立する。また実践販売をとおして生産物の品質の向上、および商品開発の促進を図ることにより、実践的な知識・技術を教師自身が身につけ、指導内容のレベルアップにつなげる。